

近世の日本 | 江戸時代の百姓・町人と産業の発達

1 単元の概要

江戸幕府は身分制度を確立させ、人々はそれぞれの身分の中で職分を果たしました。農村では、人口の多数を占めた農民が、村を生活の基盤として農作業などで助け合いながら暮らし、農村が幕府や藩の経済を支えました。また、都市部では産業・交通の発達とそれに伴う町人文化が形成され、地方にも文化が生まれました。この単元では、身近な地域の中から江戸時代の民衆の生活について小倉で盛んに生産された小倉織などの特産品等を中心に調べ、産業・交通の発達による社会の変化について考えていきましょう。

2 学習のねらいと手だて (※教育課程編成資料の指導計画を参照)

- 身分制度の確立や身近な地域の産業・交通の発達などを通して、その時代の民衆の生活に変化がみられるようになったことについて理解させる。
- 地方の生活や文化が発達した要因を、長崎街道や宿場町の様子等の各種資料を基にしながら考えさせる。



西国内海名所一覧

3 指導計画 (総時数 5 時間)

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 農村と町の様子を描いた絵や幕府の禁令などから、当時の人々の暮らしについて気付いたことを発表する。 ① 百姓、五人組、町人 ② 江戸時代の身分制度	◆ 小倉城下町の様子 (ジオラマ) ◆ 豊前小倉図 ◆ 西国内海名所一覧 ◆ 「町と商人関連」展示 ◆ 筑前名所図会 (パネル)	1 時間
II 江戸時代の産業の発達について調べる。 ① 新田開発と農業 ② 漁業や鉱業	◆ 糸車、紡ぎ車 ◆ 綿手本 ◆ 川ひらた解説映像「堀川の水運」 ○ 農業生産が増大した要因を、農業技術の発達や商品作物の栽培などをもとに考えさせる。	1 時間
III 江戸時代の都市・交通の発達について調べる。 ① 三都・五街道・特産品	◆ 街道と宿場町等 ◆ 上野焼、清水焼、田香焼 ◆ 名産と名所パネル	1 時間
IV 身近な地域の江戸時代の産業・交通について調べる。 ① 身近な地域の交通 ② 身近な地域の産業	■ 博物館での学習 ○ 「江戸時代の北九州」の展示のうち「町と商人」「街道・宿場町と航路・港町」「水運」の展示資料を参考にする。 ◆ 西国内海名所一覧 ◆ 水運関連の展示 ◆ 長崎街道と筑前六宿 ◆ 川ひらた ◆ 小倉織袴 ◆ 小倉縮献上品	1 時間

4 学習展開例 (1 時間扱い)

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
身近な地域の江戸時代の交通、産業の様子について調べよう。 <博物館での学習> 1 時間		
1 身近な地域の江戸時代の交通について調べよう。		
I 「西国内海名所一覧」を見て、たくさん船が泊められている理由を予想する。	○ 資料を見ながら、自分の考えをもたせ、それぞれが予想した考えをワークシートに記入させる。	◆西国内海名所一覧 ◆西国筋船路図巻
II 北九州の代表的な水運、海運、渡しを探す。	○ 資料パネルを探して、それぞれの名前を調べてワークシートに記入させる。	◆「堀川の水運」パネル ◆「響灘の海運」パネル
III 長崎街道を中心に陸上交通について調べる。	○ 資料パネルを見て長崎街道について調べ、北九州にあった2つの宿場を探させる。(黒崎宿・木屋瀬宿)	◆「関門海峡の渡し」パネル ◆「長崎街道と筑前六宿」パネル
IV 北九州の交通の発達の要因について考え、まとめる。	○ 江戸時代の交通についてまとめたワークシートの文の空欄に当てはまる言葉をそれぞれ考えさせる。また、本州との玄関である北九州の地理的条件についても押さえる。	◆黒崎宿古図 ◆木屋瀬宿図絵馬
2 身近な地域の江戸時代の特産品について調べよう。		
I 江戸時代のころ全国的に知られていた北九州の特産品を探す。	○ ワークシートの写真を参考に、江戸時代の特産品の名前を調べさせる。	◆小倉織袴 ◆小倉縮献上品 ◆鶴の子と紅羊羹の暖簾 ◆上野焼 ◆田香焼 ◆清水焼
まとめ 本時の学習で気付いたことや感想を書こう。		
I 自分が調べたことや発見したことを振り返り、今日の学習で分かったことや学習の感想を書く。	○ これまでに調べたことを効果的に振り返り、まとめさせるために、江戸時代の交通や産業学習の様子と、それに伴う庶民の生活の変化について分かったことや感じたことなどを書かせるようにする。	

5 博物館での学習

身近な地域の江戸時代の交通、産業の様子について調べよう。〈博物館での学習〉

歴史ゾーンのテーマ館(江戸時代)では、江戸時代の人々の生活に関わる交通、旅、当時の北九州の特産品などの資料が豊富に展示されています。それらの資料を見て、当時の人々の生活について考えるとともに人々の工夫や生きるための努力を知るきっかけを得ることができます。

1 身近な地域の江戸時代の交通について調べよう。

江戸時代には、江戸を中心として五街道が定められました。また、水上交通では江戸と大坂の間に菱垣廻船や樽廻船が運行されるなど、全国に交通網が発達していきました。九州においても長崎街道を中心に陸上交通の発達が見られ、多くの人々や年貢米などの物資を輸送する水運が特に発達していました。船を使っただけの水陸輸送は陸路よりも、人やものを大量に運ぶことができるという利点がありました。



西国筋船路図巻



川ひらた



妙見丸図



木屋瀬宿図絵馬(複製)

尾形洞霄筆(複製)

2 身近な地域の江戸時代の特産品について調べよう。

本州への玄関口にある北九州は、交通の要衝の地として、大名の参勤交代、幕府の役人や外国使節の往来など、水陸ともに賑わいを見せました。そのため、中国・朝鮮や全国各地から文化が伝えられ、織物や焼き物、菓子など北九州には多数の特産品が生まれていきました。



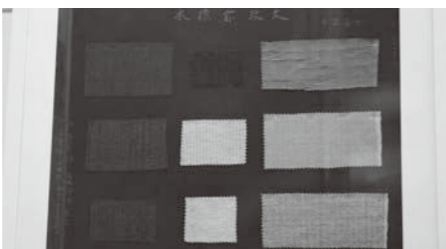
山海愛度図会
はやく酔をさましたい女性は豊前小倉縞を着ています。



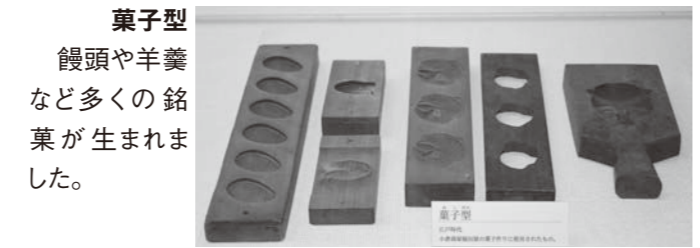
上野焼



田香焼



縞手本
小倉織や小倉縞は全国的にも有名になりました。



菓子型
饅頭や羊羹など多くの銘菓が生まれました。

1 理由を予想しながら、北九州の交通について考えてみよう。

(1) 「西国内海名所一覧」を見て、なぜ川の河口の近くに多くの船が泊められているのか予想してみよう。



西国内海名所一覧

年貢米が集められて、ここから船で運ばれたから。
地方の特産品などが集められ、船で江戸に運ばれたから。

(2) 資料パネルを見て、江戸時代の北九州の代表的な水運、海運、渡しを調べよう。

(堀川) の水運、(響灘) の海運、(関門海峡) の渡し

(3) 「長崎街道と筑前六宿」のパネルを見ながら、下の文の()を埋めて、現在の北九州市八幡西区にあった宿場を資料パネルから2つ探してみよう。

江戸時代の九州には、小倉城下から長崎まで通じる「(長崎) 街道」が整備され、その道筋には多くの宿場が設けられました。その中でも特に福岡藩内で重要とされた6つの宿場は「(筑前六宿)」と呼ばれ、多くの人やものが行き交いました。

現在の北九州市八幡西区にあった宿場 → (木屋瀬宿) (黒崎宿)

(4) 北九州の交通についてまとめた下の()に言葉を入れて文を完成させましょう。

船を使う(水上輸送)は、陸上輸送よりも人やものを一度に(大量)に運ぶことができるという利点があります。また、小倉から長崎まで通じる「(長崎) 街道」も整備されていました。これらのことから(本州)と九州の玄関口に位置し、たくさんの人やものが集まってくる北九州は、古くから水上・陸上の(交通)が発達しました。

2 江戸時代の北九州の特産品を調べよう。

参勤交代のときの大名の宿所としても栄えた小倉には、江戸時代に全国的にも有名だった特産品が多数ありました。下の写真の特産品を探してみよう。



(小倉織の袴)



(小倉縮の献上品)



(霧の子と紅羊羹の暖簾)

3 学習を振り返って、感想や気付いたことを裏面に書きましょう。